

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500296		
法人名	株式会社白松		
事業所名	グループホーム白松		
所在地	千葉県八街市富山1345-16		
自己評価作成日	平成22年1月29日	評価結果市町村受理日	平成22年5月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティアケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月1回、写真入りの新聞を発行し、ご家族様に生活の様子を報告、又新聞を送付する時、手書きの手紙にて受診結果やコメントを記入し、毎日のバイタルチェック表を同封する。
ご家族様には安心していただけるのと、ご本人様とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者家族、地域の関係者に向けてホームの新聞を毎月1回発行している。この新聞を活用しながら常に地域との関わりを大切にしたいという思いを持っている。また、当ホームに隣接している母体の介護付有料老人ホームと連携を取り、合同による教育研修が実施されている。医療面でも定期的に有料老人ホームの協力医の診察を受けられる体制になっている。有料老人ホームで行う白松大納涼祭という行事や社交ダンスパーティにはグループホームの入居者も参加し、地域とも交流している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示し、理解の上、努力している。	理念は常に職員の目に触れるように掲示している。毎朝、申し送りの時に理念と理念に基づく介護十ヶ条を確認し、ケアする上で実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の美容師が定期的に来て、髪のカットをしてくれる。地域の方がボランティアで歌や読み聞かせに来てくれる。	併設の有料老人ホームとも協働して地域との関わりを持つようになっている。自治会に加入する予定もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、地域の方々に高齢者にやさしいこの環境(園庭に段差が少ない、車いす用のトイレがある)を散歩等で利用していただけるよう話をしました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの生活をスライドショーという形で報告。今後の交流方法を協議しました。	今年度は1回の開催である。運営推進会議をどのような会議にしていくか模索中である。	開催回数も、もう少し増やし、運営推進会議がホームにとって、サービスの質の向上につながる意義のある会議にしていくことが必要と思われる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、区長、白松役職者との話し合いの場を持ち、意見交換を行っています。	この1年で、ずいぶん担当者との関係性が出来てきた。今後はこの関係性を継続し、さらに連携を深めていくことが期待される。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活の場が2階の為、安全面を考え、施錠している。(家族は了解)	入居者が過去に徘徊した経緯があり不安を払拭できないまま、家族の了解のもとに施錠している。職員体制にも余裕はなく安全第一を目標にしている。その他の身体拘束はしていない。	安全面を重視する理由については理解できるが、スタッフ会議等で施錠の弊害について話し合い、利用者本位で自由に暮らすことを支援できるような方向性を検討することが期待される。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や社内勉強会に参加し、理解を深めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。同企業グループ・有料老人ホームで利用している方がいるので、相談できる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等で十分な説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居住者家族意見交換会での要望や苦情等について、全職員に報告し、その都度改善しています。また外部評価の結果をコピーして、家族へ郵送報告しています。	なかなか意見が出てこない傾向があるが、出された意見に対しては、その都度運営に反映させるように努力している。今後は、より多くの意見を吸い上げる工夫がされるとさらによいと思われる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、必要に応じて話し合いの場を作る。毎日の申し送り時、意見や提案を聞く。	日頃のミーティング等で職員から出される提案、意見を管理者がメモを取り運営に活かしている。相互の關係に忌憚なく言い易い環境ができています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続表彰制度あり。資格の有無より、認知症を理解し、心をこめて接することのできる人を職員として採用。交代で研修に参加。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉研修センターからの研修には、職員が交代で受講している。また、白松の郷との合同社内研修には職員全員が参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はグループホーム連絡会に入っていましたが、会の内容が変わり、今は入っていません。セミナー等参加して勉強しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時、ご本人の事を家族から聞き、日常生活の中でも、本人から不安な事や要望を聞くようにしている。気にかかること等あれば、その都度家族に聞いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時からご家族とは話し合いの場を多くとり、家族の不安な事や要望を聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談された内容については、他の職員とも話し合い、積極的に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等、出来ることは積極的にやっていたり、共に生活していると感じていただく。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は大切だと思っています。本人の意向、家族の意向を傷つけないよう、時には間に入って伝える。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が逢いたがっている旨は家族に連絡しています。また親戚の方への手紙代筆や伝言、家族宅への外泊等支援しています。	馴染みの関係を大切に考え、家族等への電話の代行、手紙の代筆をしたり自宅に外泊できるように支援したりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居住者同士の関わりに注意し、良好な関係が保てるよう、さりげない声かけや支援を行う。固定された人だけの関わり合いではなく、さまざまな方との関わりが保てるような場面の提供。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡された方、退居された方に対しても、6ヶ月間はグループホームの新聞を送らせていただく。その後もいらないタオルやオムツなど送られてきたり、寄って下さる事もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時々居室に伺い、話を聞く時間を持ちたり、日常生活の中から希望や意向をくみ取る。また訴えや行動の中にある本人の気持ちを伝える。本人からの意向が困難な場合は、家族に伺いながら把握に努めている。本人にどうしたいのか問いかける。「どうしたいの？」	各室の掃除などで1対1になったとき様子を見ながら希望を聞くようにしている。表出しにくい利用者に対しては行動や表情で察し、くみ取るようにしている。利用者との職員との会話が、多く、家族に近い関係ができています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や居宅ケアマネジャーから情報の提供を受けたり、ご本人の話の中から聞きとるようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で生活記録、受診記録、申し送り等を記入することにより、一人ひとりの状態の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一年に1回～2回、ご家族と意見交換会を持つと共に、受診報告や状態報告等、必要に応じて連絡しています。	介護計画は半年ごと、変化があったときはその都度、臨機応変に見直しを行っている。職員それぞれが感じたこと、家族の要望、利用者の思いなどを参考にモニタリングを行い反映させるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの生活記録や申し送り時に毎日の行動や気づき変化を記入し、全職員で確認し介護計画の見直しにも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望によるご家族との外泊や外出を支援しています。また白松の郷の協力のもと、多種多様な行事、レクに参加しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事ごとに招待し、馴染みの関係にあります。勉強会を開き、消防署に指導をして頂く機会を作っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、協力医療機関に変更される居住者が多く、毎週水曜日に白松の郷健康相談室において診察を受けています。また毎週月・金には訪問歯科の診察も受けることができます。毎週水曜：八街総合病院、月曜：八街総合病院・訪問歯科 金曜：佐倉デンタルクリニック	隣接の母体法人「白松の郷」で協力医の訪問診察を月1回行っている。体調が悪い時などは医科、歯科を毎週受診できる。かかりつけ医の受診に同行することもあり、結果はその都度家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に変化があった場合、白松の郷の看護師に連絡し、相談・対応してもらっています。日に一度は居住者の状態を見に来てもらっています。状態が変化した場合は随時。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交代で定期的に見舞いに行き、様子を見てくる。白松の郷の医務室ヘルパーが毎日病院に行き、様子を見ると共に、病院看護師の話を伝えてもらっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは今のところ出来ないもので、あらかじめ家族に話をすると共に、提携している特養等の話を家族にする。終末期のあり方については、早い段階から家族と話し合う。	ターミナルケアは実施していない。家族には入居時に説明し納得してもらっている。共同生活が困難になったときは、提携施設である特養や母体法人の有料老人ホームを紹介している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師指導のもと、勉強会を行うと共に、マニュアルを作成しています。緊急時には看護師への連絡網、グループホームの連絡網もあります。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月19日を「防災の日」と決め、居住者・職員と共に消防署、佐倉防災等の勉強会に参加、器具・消火器の使い方訓練を受けている。	毎月のホーム独自の訓練のほか、年に3回、母体法人を中心に行われる避難訓練に参加している。ホームには数か所に避難経路のプレートが掛けられ、防災用具は取り出しやすい場所に保管されている。また、母体の有料老人ホームとも連携がとれる体制である。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である事を頭に入れ、その方にあった言葉かけをする。個人情報や机の引き出しにて保管、重要書類は白松の郷で管理。	職員が見やすい場所に、利用者に対しての言葉のかけ方を掲示し、言葉の使い方が失礼にならないよう意識しながら対応している。利用者の名前は、基本的に苗字にさんを付けて呼んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に問いかける事を心がける。また本人が表現しやすい雰囲気を作る。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせ、その日の気分を大切に希望・要望に沿う支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近所の美容師に髪をカットしてもらっています。白松の郷で月1回行われているダンスパーティーには薄化粧して着替えて出かけます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居住者、職員が一緒にテーブルに着き、食事をするので、その時、今度こんなのが食べたい等、居住者の意見を聞くようにしています。コロッケ、餃子、ハンバーグ、いなり寿司等は調理に参加、米とぎ、テーブル拭き、盛り付けも職員と共に行っています。	調理当番は1か月分の献立をたて、食材は職員が1日おきに買いだしを行っている。リビングと一体化した使いやすい台所になっていて、利用者と共に食事の準備や後片付けを行っている。利用者と職員は会話を楽しみながら楽しい雰囲気です。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分摂取量、食事摂取量を記録しています。油ものがダメな方や、体調が悪い方には、その状態に合った食事を出しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。また定期的に訪問歯科にて口腔清掃を行っています。異常時にも見てもらっています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に着替えが必要だった時も記入している為、排泄のパターンや尿量も確認できる。なぜ失敗したか検討できる。また身体的にトイレ誘導可能か、その都度職員で話し合いをしている。	トイレ誘導は排泄チェック表をもとに誘導し、自分でできるよう支援している。パッドや紙おむつは夜や外出時は厚めにしたり、昼間は薄めにするなど、不快感が無いようにそれぞれに工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認、数日間排便のない方は、看護師に相談し、対応しています。食事は野菜を多く取れる様、メニューを考えています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴日を設けていますが、変更は自由。介助が必要な方に対しては、お手伝いをし、出来る方には見守り対応させて頂いています。個々のお湯の温度にも考慮し、楽しんで頂けるよう心がけています。	浴室は窓が大きく明るい作りで、入浴を楽しみにしている利用者が多い。時間や温度など一人ひとりの好みに合わせて入浴介助を行っている。入浴を拒む利用者に対しては無理をせず清拭に変える等、臨機応変に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで見守っています。眠れないようであれば、体が冷えないよう室温や衣類に注意しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の経過記録と処方箋を確認し、服薬は職員が管理しています。服薬が変わった時には申し合わせをし、様子観察を行っています。薬の説明書を保管し、いつでも見られるように薬事典も置いてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを支援しています。長年日本舞踊をしていた方には、イベント時踊って頂いたり、歌のじょうずな方には皆様の前で唄って頂いたり、家事の得意な方には、日常生活の中で手伝って頂いています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、白松の郷への行事参加等、天候、体調により出かせます。また庭で食事をしたりもします。今年は新型インフルエンザの影響で外出が少なくなりました。	敷地内に桜並木の遊歩道があり、その先に神社がある。天気の良い日は30分ぐらいかけて散歩がてらお参りに出かける。毎月1回のドライブは公園や回転ずしなどに出かけ楽しんでいる。母体法人「白松の郷」のダンスパーティーにも参加している。	行きたい場所への個別の外出支援がなかなかできない状況である。家族や地域住民の協力も得て、少しずつでも実現することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム白松 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名程度、お金を自己管理しています。常にカバンを持って歩いている方もいます。日常の金銭管理は、白松の郷事務所で行っています。自分のお金で買物したい方には職員と一緒にいきます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時は、職員が電話をかけ、本人からお礼を言っていただきます。また年賀状や手紙の代筆を行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が近い為、調理の音やにおいがあり、生活感を常に感じることができる。またカーテンは居住者が自由に開閉している。	共用空間は明るく床暖房設備があり快適である。台所とリビングが一体化した作りになっているため家庭的で使いやすい。置物や飾り物は季節を感じさせる手作り品が多く飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、廊下にソファを置き、自由に使用しています。また気の合った者同士でそのソファで話したり、居室で話したりしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物を居室に持ち込んでいます。壁には家族の写真、手作りのカレンダーを飾ったりと、個人の居室としての雰囲気を出しています。	各居室には洗面台と収納家具が配置されているが、使い慣れたタンスや愛用品の持ち込みは自由である。壁には写真や手作りカレンダー、時計などが掛けられ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり(廊下、浴室、トイレ内、階段等)を設置し、便座は高いもの、低いものを設置。館内はバリアフリーとじゅうたん張り。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所